



(1) 2024年度からの新学部・学科

- 〔現在〕入学定員 280人
- 経済学部
 - 現代経済学科 (80人)
 - ビジネス戦略学科 (150人)
- 福祉情報学部
 - 人間コミュニケーション学科 (50人)
- ↓
- 〔2024年度〕入学定員480人
- 経済経営学部
 - 経済経営学科 (160人)
- 人間健康科学部
 - スポーツ健康科学科 (80人)
 - 看護学科 (80人)
 - 福祉学科 (60人)
- 情報科学部
 - 情報科学科 (100人)

(1) コミュニティ・ベースド・ラーニング (CBL)

地域連携のもと地域の課題を発見し、解決法を見出すことに挑戦する実践的な学びのこと。CBLにより下記の能力が身につくと期待される。1 実践的な経験をもとにしたキャリア形成。2 コミュニティとの連携とネットワーク形成。3 学際的な学習の促進。4 自己肯定感や使命感の醸成。

(3) AI戦略2019と数理・データサイエンス・AI教育プログラム

デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎などの必要能力をすべての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍する環境を構築する必要があるとの背景から、「AI戦略2019」では、2025年度にリテラシーレベルで年間約50万人、応用基礎レベルでは年間25万人などを育成する目標を掲げている。これに向けて、大学・高等専門学校等の数理データサイエンス教育に関する正規課程教育のうち一定の条件を満たした優れた教育プログラムを政府が認定し応援する。

周南公立大学は、2021年6月に、「学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、適切に理解し活用する基礎的な能力を育成する」リテラシーレベルの認定を取得。2022年8月にはその上の「実践的な能力を育成する」応用基礎レベルにも認定された。

周南公立大学は新たな価値の創造、地域の持続的発展による地方創生を実現するため、地元・周南市はもとより周南圏域の下松市や光市と政策連携の強化を図るとともに、高等教育機関の教育水準向上を目指して国立の徳山工業高等専門学校とも協力。2020年には商工会議所や地元企業などと周南創生コンソーシア

ムを設立し、地域連携を深めています。こうした周南公立大学の優位性を生かしたカリキュラムが「地域共創型インターンシップ」です。これには2種類あり、アリー・エクスポージャー型は1年生全員が1週間程度、約90の地元企業・団体等職業体験を行うもの。2・3年次向けのジョブ型は、志望する県内外の企業などで長期間体験を積みまず進路支援や就活指導については、1年次から始まる少人数のゼミでも学生一人ひとりを手厚くフォローし、2022年度の日本人学生の就職率は100%を達成しました。このような多彩で積極的な取り組みを進める周南公立大学の人気ぶりは、2023年度一般選抜の志願倍率が20・0倍と、国公立大中1位になったことから伺えるでしょう。公立ならではの学費や独自の奨学金など経済的な支援も充実しており、県内外から注目を集めています。「地域で考え、地球規模で行動する(Think locally, Act globally)」という言葉があります。地域の集合体であり、世界なのであって、だからこそ地域について深く学ぶこと、その普遍性を理解することが、世界を理解する第一歩となるのです」と語る高田学長。「2024年には新校舎も完成する本学は、とても熱い大学です。このワクワクするキャンパスでぜひ自分自身の能力を発揮してください」と、受験生の皆さんにエールを送っています。

新しい教室とともに学生、教職員、地域の方々の交流が生まれる
コミュニケーションモンスを備えた新校舎が2024年春完成予定



北側外観



1階の多目的交流ホール



円形広場と軒下が一体となる空間

で初の4年制看護師養成機関となる看護学科では、複雑化・多様化する医療・看護・介護の変化に対応できる総合的能力を有する看護師の育成を図り、地域医療に貢献します。公立大学としては全国で2番目の設置となるスポーツ健康科学科では、長寿社会における健康を支える人材育成を目指し、福祉学科では誰もが幸福で満たされた状態(Wellbeing)を実現するための専門知識と幅広い視野を持った社会福祉士を育成します。さらに、これまでの経済学部は、経営やアントレプレナーシップについての学びなども含め、経済経営学部として再編します。こうした学部新設・再編に伴い、周南公立大学には、各学部のコアとなる優れた教授陣が続々と着任し、2024年度には100人体制にまで整備する計画です。こうした高い研究力を持った研究者たちが今後、地域に有用な研究を進められるよう、「研究・地域・産学連携推進機構」が産学連携や研究プロジェクトを後押しします。

CBLやデータサイエンス 将来生かせる学びが充実

周南公立大学は前身の徳山大学時代からEQ教育やPBL、アクティブラーニング、学部学科横断的カリキュラム、ピア・サポート活動などに取り組んできました。特に重視しているのがコミュニティ・ベースド・ラーニング(CBL)です。これは、地域の課題発見と解決に挑戦する実践的な学びのこと。「地域は学問の道場である」とし、地域に出て学ぶ学生を応援しています。また、周南公立大学は政府の「AI戦略2019」の教育プログラム①の第一回認定を受けており、全学部で数理・データサイエンス・AI教育のリテラシーレベルの能力を情報科学部では応用基礎レベルの能力を習得します。

全員参加のインターンシップ 地域力で高い就職率を実現
周南公立大学は新たな価値の創造、地域の持続的発展による地方創生を実現するため、地元・周南市はもとより周南圏域の下松市や光市と政策連携の強化を図るとともに、高等教育機関の教育水準向上を目指して国立の徳山工業高等専門学校とも協力。2020年には商工会議所や地元企業などと周南創生コンソーシアムを設立し、地域連携を深めています。こうした周南公立大学の優位性を生かしたカリキュラムが「地域共創型インターンシップ」です。これには2種類あり、アリー・エクスポージャー型は1年生全員が1週間程度、約90の地元企業・団体等職業体験を行うもの。2・3年次向けのジョブ型は、志望する県内外の企業などで長期間体験を積みまず進路支援や就活指導については、1年次から始まる少人数のゼミでも学生一人ひとりを手厚くフォローし、2022年度の日本人学生の就職率は100%を達成しました。このような多彩で積極的な取り組みを進める周南公立大学の人気ぶりは、2023年度一般選抜の志願倍率が20・0倍と、国公立大中1位になったことから伺えるでしょう。公立ならではの学費や独自の奨学金など経済的な支援も充実しており、県内外から注目を集めています。「地域で考え、地球規模で行動する(Think locally, Act globally)」という言葉があります。地域の集合体であり、世界なのであって、だからこそ地域について深く学ぶこと、その普遍性を理解することが、世界を理解する第一歩となるのです」と語る高田学長。「2024年には新校舎も完成する本学は、とても熱い大学です。このワクワクするキャンパスでぜひ自分自身の能力を発揮してください」と、受験生の皆さんにエールを送っています。



たか たか かし
高田隆学長
1978年広島大学歯学部卒業。82年同大学大学院歯学研究科修了。専門は頭頸部病理学。広島大学歯学部長、理事・副学長などを経て2019年徳山大学学長。22年同大学の公立大学法人化に伴い現職。日本歯科医学会長賞、カンボジア王国友好勲章など受賞多数。

人口急減と超高齢化が加速するわが国において、地域の持続的発展と価値創造のための「成長エンジン」となることをミッションに、「地域に輝く大学」として、「日本一のまちづくりの中核となる大学」を目指し先導的な大学改革を展開しているのが周南公立大学です。

2024年度には経済経営学部、情報科学部、人間健康科学部への学部改組を行うなど、教育・研究環境のさらなる強化・充実を推進。地域の民間企業や団体と協働して産学連携を進める「周南創生コンソーシアム」など、地域と世界の持続的発展に寄与する取り組みも各界から高く評価されています。こうした中、2023年度一般選抜では志願倍率が全国の国公立大学でトップとなるなど、県内にとどまらず広く全国の受験生から注目を集めています。

周南公立大学

〒745-8566 山口県周南市学園台843-4-2 学生支援部入試課 TEL 0834-28-5302 <https://www.shunan-u.ac.jp/admission/about/>

新たな学部学科を設置・拡充 地域の知の拠点として成長著しい 21世紀の「地域貢献型公立大学」

**「地方創生」のコアとなる
新生・公立大学法人**

少子高齢化の進行により日本の人口は減少を続け、15歳から64歳までの生産年齢人口は、2050年には現在のおよそ3割減の5275万人にまで減少することが見込まれています。人口減少抑制、地方創生はわが国における喫緊の課題ですが、公立大学法人としてこうしたテーマに全学を挙げて取り組み、歴史や文化産業の面で大きな潜在力を有する山口県で「日本一のまちづくりの中核」を目指す先進的な改革で注目を集めているのが周南公立大学です。「本学は地域の持続的発展と価値創造のための『成長エンジン』となることをミッションに掲げ、大学運営を展開しています。地域の発展を牽引する人材を育成し輩出することで、持続的発展に資する。そして地域が必要とする研究を推進することで、新しい価値を創造し、提案していくのが本学の役割だと考えています」と高田隆学長は説明します。周南公立大学は1971年、公設

現在の若者が社会で活躍する10年後、あるいは20年後は超スマート社会が実現し、AIやロボティクスなどの先端技術が当たり前となる社会が到来します。人口や産業構造が激変し、新しい技術や社会に対応できる人材の育成が急務となる中、周南公立大学では24年度から学部学科の大胆な再編、および新設を行います。「新しい学部学科を準備するに当

**24年度から3学部5学科で
未来に有用な人材育成を図る**

「本学は『地域に輝く大学』となることを、ビジョンとして宣言しました。さらに『学生のためになるかどうか』『地域の発展につながるかどうか』を大学構成員の価値観、すなわちバリューとして行動指針にしています」(高田学長)

「本学は『地域に輝く大学』となり、地域ではどんな人材が必要としているのか。周南地域の企業や団体など100社を超える事業者へアンケート調査を行うことで地域ニーズを把握し、新学部学科開設に向けた議論を重ねました。その結果、情報系、看護・保健・福祉系、スポーツ健康系、経営・商学系の学問領域からなる3学部5学科①編成に刷新することに決めたのです」と高田学長は説明します。

まずは、県内初となる「情報科学部」を開設。Society 5.0時代に向けて文理融合・学部横断的な教育を行うことにより、情報化時代を担う人材を育成。周南市が掲げる「スマートシティ構想」の実現に寄与します。また、看護学科およびスポーツ健康科学科、福祉学科を擁する「人間健康科学部」を新設します。県東部

